

登録コード	E4621900	開講年度	2026		
授業科目	数学教育評価論				担当教員 榎本 哲士
英文授業名	A Methodology of Assessment for Mathematics Education				副担当 茅野 公穂
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	月曜・5時限
講義室	教育N303講義室		授業形態	講義	遠隔授業科目
信大コンピテンシー	該当				
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】
	26Eカリ, 25Eカリ, 24Eカリ, 23Eカリ, 22Eカリ, 21Eカリ, 20Eカリ				
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観			⇔	児童・生徒の数学学習の状況を評価する教育の専門家に求められる態度を身に付けることができる
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能			⇔	専門的な知識・技能に基づいて数学学習の評価する問題を開発することができるようになる。
(2)授業で学べる「テーマ」	その他				
(3)全学横断特別教育プログラム					
(4)授業の概要	数学教育で育成される資質・能力に即して子どもの学習状況を評価する方法について知り、こうした理解に基づいて評価法を作成し、模擬的な試験などを通して評価法を改善する。				
(5)授業計画	第1回：数学教育と評価：目的と方法（榎本哲士教員） 第2回：数学的に考える資質・能力の育成と評価の必要性：全国学調の枠組み（榎本哲士教員） 第3回：思考・判断・表現を評価する問題例と記述の形式1：事柄・事実の説明（榎本哲士教員） 第4回：思考・判断・表現を評価する問題例と記述の形式2：方法・手順の説明（榎本哲士教員） 第5回：思考・判断・表現を評価する問題例と記述の形式3：理由の説明（榎本哲士教員） 第6回：思考・判断・表現を評価する問題の構想・考案（グループ）（榎本哲士教員） 第7回：思考・判断・表現を評価する問題案の検討1：問題の文脈と系列（グループ）（榎本哲士教員） 第8回：思考・判断・表現を評価する問題案の検討2：解答類型で顕在化する学習状況（グループ）（榎本哲士教員） 第9回：数学的に考える資質・能力を評価する問題例と学習状況1：短答式（茅野公穂教員） 第10回：数学的に考える資質・能力を評価する問題例と学習状況2：選択式（茅野公穂教員） 第11回：数学的に考える資質・能力を評価する問題例と学習状況3：複合型（茅野公穂教員） 第12回：数学的に考える資質・能力を評価する複合型の問題の構想・考案（茅野公穂教員） 第13回：数学的に考える資質・能力を評価する複合型の問題の検討（茅野公穂教員） 第14回：評価問題を活用した授業改善（授業アンケートの実施）（茅野公穂教員） ※発表では「情報機器及び教材の活用」を含みます。 ※教育実習による欠席分の補講（3年生対象）については、授業時に連絡する。				
(6)成績評価の方法	数学学習の状況を評価するために作成した問題について発表した内容（40%）とレポート課題（60%）により評価する。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。				
(7)成績評価の基準	数学学習の評価法（思考・判断・表現、複合型）について授業で扱った内容と同程度のレベルの問題・解答類型を作成できれば「水準にある」、その上でいずれかについて発展的な問題（あるいは一連の問題）・解答類型を作成できれば「やや上にある」、両方について発展的な問題（あるいは一連の問題）・解答類型を作成できれば「かなり上にある」、作成した問題で顕在化できる学習状況を明示し解答類型をもとに解説できていれば「卓越している」と判断される。				
(8)事前事後学習の内容	受講に際し事前に前回の講義で課した内容について予習が必要であるとともに、講義内容を習熟するために講義で課した課題に取り組むとともに、授業時間以外の学習が必要である。※事前・事後学習として、1回の授業につき少なくとも4時間、合計60時間以上を確保すること。				
(9)履修上の注意	授業で使用する資料を事前にe-ALPSからダウンロードするとともに、他に持参するものについてはe-ALPS上で指示する。				
(10)質問、相談への対応及び連絡先	オフィスアワー・・・茅野・榎本：随時、 連絡先（茅野）：chinok@shinshu-u.ac.jp 連絡先（榎本）：satoshi_enomoto@shinshu-u.ac.jp				
【教科書】	文部科学省『中学校学習指導要領解説 数学編』				
【参考文献】	指定しない。				